



第 481 号 平成30年8月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

京都市教育委員会，京都市立校園長会との懇談会

会 長 林 鐘 声

6月30日(土)の教育委員会との懇談会には、教育委員会からは在田教育長と体健室の福西室長、白波瀬課長、小野課長補佐が出席しました。協議は、①就学時健診の日程、②学校保健委員会の実施、③食物アレルギーによるアナフィラキシー発症、④運動器検診、⑤学校の精神保健対応、の5点を中心としました。7月21日(土)の校園長会との懇談会でも①～④を協議しましたので、まとめて報告します。

①：学校保健安全法に則るので11月開催は動かせないのが実情です。小学校長によると年間行事予定を2月頃に組むので、定期健康診断時には学校医に予定を伝えるか、あるいは前年の就学時健診時に伝えている筈であるということでした。養護教諭や学校医の交代した時には伝えきれないことが起こり得ます。従って、4月の時期にまだ日程が知らされていない時は、学校医から確認して頂くのが良いようです。

②：指定学校医制度の3年毎の資格更新がこの春にありました。3年間に単位0の先生はA支部4人、B支部2人、支援学校支部5人の11人でした。これらの先生方は学校保健委員会に3年間で一度も出席しなかったということになります。中には、校長が学校保健委員会を開催しなかったために、出席できなかった先生がA支部に1人いたことを伝えると、教育委員会も校長会も驚いていたようです。校長会は、私達がこの委員会に出席することを重視していることに大なる歓迎を示していました。事情は色々あるとは思いますが、歓迎される会の主役でもありますので是非、都合をつけて出向いて頂きたいところです。

③：京都市では平成25年7月を皮切りに平成29年

度末までに、学校(児童館を含む)で9人にエピペン注射が行なわれ、救急搬送されていました。うち予期しないアレルゲンによるアナフィラキシー発症者は5人もいました。そこで、アナフィラキシー発症のため救急搬送された例について、教育委員会に残っていた個別の資料をもとにまとめてみました。それを資料として協議しました。

平成29年度末までに、28人、32件の事例報告があり、うち予測されたアレルゲンが誘因であったのは8人に過ぎず、予測とは異なるアレルゲンが関与したのが11人、今までにアレルギーの既往がなく、初めてのアナフィラキシー発症が学校で生じたのが9人でした。即ち、学校現場でノーマークの児童生徒がアナフィラキシーを発症することは、決して稀ではないということが明らかとなりました。アナフィラキシー対応研修会を定期的の実施する必要性を要望しました。

④：教育委員会、校長会の許可もあって、今年、再び全学校の検診結果を調査します。そこで、2年間の結果を改めて示し、この検診の有用性を高めるには、専門医受診率の向上が不可欠であり、そのために未受診者には校長からの指導も望まれることを伝えました。

⑤：教育委員会との懇談会では、有井顧問は、教師の発言を暴言と感じて傷つく発達症のこどもがいること、保健室対応が一律となっている学校もあるとの見解を示すとともに、このような事例研究を教育現場と一緒に、不登校対策委員会の場で検討しようとの提案を持ち掛けました。

校園長会の懇談会では、眼科からは、紙媒体の教科書は色覚異常の対応ができていますが、デジタル教

科書は対応できていないとの指摘や、色覚検査が未実施であったために、就職直前あるいは就職後にそれと判って、人生設計に大きな蹉跌をきたした事例が紹介されました。耳鼻科からは、医療的ケア児への取り組み推進と、定年を迎える耳鼻科医が多く、近々、今以上に学校医不足が危惧されることが伝えられました。

今回、協議致しませんでした。熱中症対策は気になるところです。学校には関係団体から対策の通

知は山のように来てはいます。一般的なことは十分に周知されてはいても、いざ現場での具体的な対応ということになると悩ましいところが色々あるのではないのでしょうか。7月17日には愛知県の小学生が熱中症によって死亡したことが報道されました。その中で、校長が「結果として判断が甘かった」としたのは、何のことをさしていたのでしょうか。具体的な対応を見極めていくのに、更なる情報、検証が大事となります。

第69回指定都市学校保健協議会 課題別協議会 第1分科会「健康教育」報告

太秦小学校校医 井本 雅 美

第1分科会では「生涯にわたり主体的に心身の健康を保持増進する力を育む健康教育」というテーマで発表と協議が行われた。

○主旨：子供が自らの健康に感心をもち、主体的に健康の保持増進に取り組む能力を育成する健康教育の在り方について協議する。

○協議の視点：

- 1) 健康課題を解決するための主体的、実践的な態度を育てる健康教育の進め方
- 2) 学校、家庭、地域、関係諸機関との連携による効果的な健康教育の推進

○口頭提言題及び提言者

No.1 自分の体を知り、自分ごとと思える健康教育を目指して
～横浜市体力向上研究校の授業研究会に学校歯科医が参加したら～

横浜市立間門小学校

学校歯科医 荒木 敏哉

No.2 病気を予防するために、学んだ知識を生かして行動できる児童の育成
～行動科学を生かした保健教育を通して～

名古屋市立笹島小学校 渡邊 恭子

No.3 生徒が主体的に活動する委員会活動

京都市立紫野高等学校

養護教諭 杉本 芙美子

No.4 行動変容につなげる健康教育

神戸市立高丸小学校

養護教諭 八木 泰子

No.5 北九州市薬剤師会の健康教育に関する取り組みについて

公益社団法人北九州市薬剤師会

井上 正太

No.1 では、学校歯科医として授業に参加し、子供たちに「ミュータンスと虫歯」について学んでもらい、その学習の前後における担任、児童、保護者の意識変容について発表された。学校歯科医や学校医が授業に関わり成果をあげるには、当たり前ではあるが、何を目指すのか？について学校側と十分打ち合わせをすることが大切と感じた。No.2では、病気を予防するため自ら行動できるようにさせるため、「行動変容ステージモデル」に着目し、適切な働き掛けを行う手法について発表された。No.3では、健康について「自分のこととして考える力」を高めるため、生徒の保健委員会活動を活用した取り組みについて、No.4では発達段階に応じた「行動変容」を促す取り組みについて（いかに変容を継続させるかが課題）、No.5では学校薬剤師における学校環境衛生や薬物についての積極的な取り組みについて発表された。

健康について「主体的」かつ「継続的」に実践させる取り組みとして、学校医としてどのような関りができるかについて考えるきっかけとなった。

第69回指定都市学校保健協議会 記念講演「挑戦する大切さ」に参加して

西京高校学校医 杉本英造

5月27日、浜松市にて第69回指定都市学校保健協議会が開催され、山本篤氏（プロアスリート）が「挑戦する大切さ」につき講演されました。山本氏は高校2年時にバイク事故で左足大腿部切断し、義足アスリートとして2008年北京パラリンピック走り幅跳び：銀メダルを獲得し、日本で初めてのパラリンピックメダリストになった選手です。その後、2012年ロンドンパラリンピック：5位、2015年世界選手権：金メダル、2016年には6m56cm跳び世界新記録（当時）を更新し、リオデジャネイロパラリンピック：銀メダルと活躍され、最近では平昌パラリンピック（冬季）のスキーボード競技にも出場し記憶されている方もあると思います。

「出会いの大切さ」 小学校4年生で体育に熱心な先生に出会ったこと。中学校ではバレーボールに所属するも、身長167cmでハンディがあったが、皆に出場機会をもらえたこと。高校2年で大腿切断したが、「義足になっても何ができるか問い」「スポーツをしたい」気持ちから日本聴能言語福祉学院・義肢装具学科で競技用義肢に出会えたこと。義足になったことで得られたものを大切に世界を目指す挑

戦から今日があると。

競技用義足に慣れ、使いこなすまでのつらい日々。走り幅跳びは義足で踏み切りますが、体重の10倍の荷重がかかるため身体能力を向上させないと使えません。トライアスロンにも挑戦し、身体だけでなく精神面の強化にも努めます。金メダルを狙ったりオデジャネイロで銀メダルに終わった口惜しさは強く、「できないかもしれない」と弱気になった自分がいたのかもしれないと。精神面を鍛えるため、スズキ自動車に所属していたのですが、生活を守られている安堵感を払拭するためプロに転向しました。トレーナーやマネージャー等、多くの人の支援に感謝し東京パラリンピックを目指します。体調管理とモチベーション維持がとても大切。YouTubeを使いライバルたちの姿を追い続け自身を鼓舞します。引退後の指導者の道も視野に入れ、大阪体育大学大学院で客員准教授として運動力学を研究し、また競技用義足の改善にも力を注いでおられます。「挑戦する大切さ・出会いの大切さ」を記銘させていただきました。

南支部会の報告

南支部長 清水忠雄

7月7日（土）、例年通り、林鐘声学校医会会長、長村吉朗学校医会監事をお迎えして開催致しました。

先ず最初に、林会長より平成25～29年度の京都市立学校（小・中・高）におけるアナフィラキシーによる救急搬送、エピペン非使用23例（平成26～29年度同一症例2名）、エピペン使用9例（平成25～29年度）の報告がありました。まとめとして既知のアレルゲン以外で発症した者も多く、又アレルギーの既往なくアナフィラキシーを発症した者も少数ならざいたとの事でした。いずれ校医ニュースにて報告

される予定です。

他には平成29年の運動器検診結果及び平成28年に有所見であった中学生の2年間の検診結果について。さらに平成29年度の臨時結核健康診断結果について報告頂きました。

於：菜ノ菜

出席者は宇都宮久清、小山秀樹、檜垣正、今井博之、関透、岡本行功、清水忠雄の7名と、来年度より私、清水忠雄の後継の山田武彦（順不同・敬省略）の8名でした。

全 理 事 会

平成30年8月4日
於：イルギオットーネ京都

出席者 林会長、井本・杉本副会長、山内専務理事、東道・大久保・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事、垣田・小西・清水・橋平・周藤・公手・辻幸子、佐野眼科学校医会副会長、松波耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 南支部会 7/7 18:00～ 於：菜ノ菜
参加者8名
2. 京都市中学校選手権総合体育大会 柔道種目
於：京都市武道センター
7/20 渡辺全夫先生, 7/21 出務医なし
3. 校園長会との懇談会 7/21 17:30～
於：京料理 多から
4. 第32回京都市小学生水泳記録会 7/25
於：京都アクアリーナ
林先生 8名医務室に
5. 第40回近畿学校保健連絡協議会 7/26
於：和歌山県和歌山市
6. 各支部報告
7. その他

<協議事項>

1. 就学時健診のマニュアル改訂について
(就学前健診)健康に関する調査票
ワクチンの欄が分かりにくいかも
2. 肥満とやせの指導マニュアル改訂について
西村先生
資料参照 意見のある方は学校医会まで
3. 京都市中学校秋季総合体育大会 柔道種目医師
派遣依頼について 募集かける
4. 平成30年度 子どもの健康週間行事に係る「子
育て支援シンポジウム」 後援依頼について
10/27 於：こどもみらい館
後援する
5. その他

<関連学会・各種協議>

1. 養護教育研究会との懇談会 9/1 17:30～
於：龍のひげ
2. 第4回常任理事会 9/1 2時～
3. その他

京都市学校医会 会員名簿に次の誤りがございました。

深くお詫びを申し上げるとともに、ここに訂正いたします。(太字を追加してください。)

誤		正	
53頁	京都工学院高 石川 理 612-8401 伏・深草下川原町50 ☎ (641) 3635 ☎ (641) 3806	京都工学院高 石川 理 612-8401 伏・深草下川原町50 ☎ (641) 3806 武上 俊明 601-8176 ☎ (682) 3815 南・上烏羽山ノ本町60 ☎ (682) 2383	
62頁	武上 俊明 上烏羽小 (南) 塔南高 (南)	武上 俊明 上烏羽小 (南) 塔南高 (南) 京都工学院高 (伏)	